

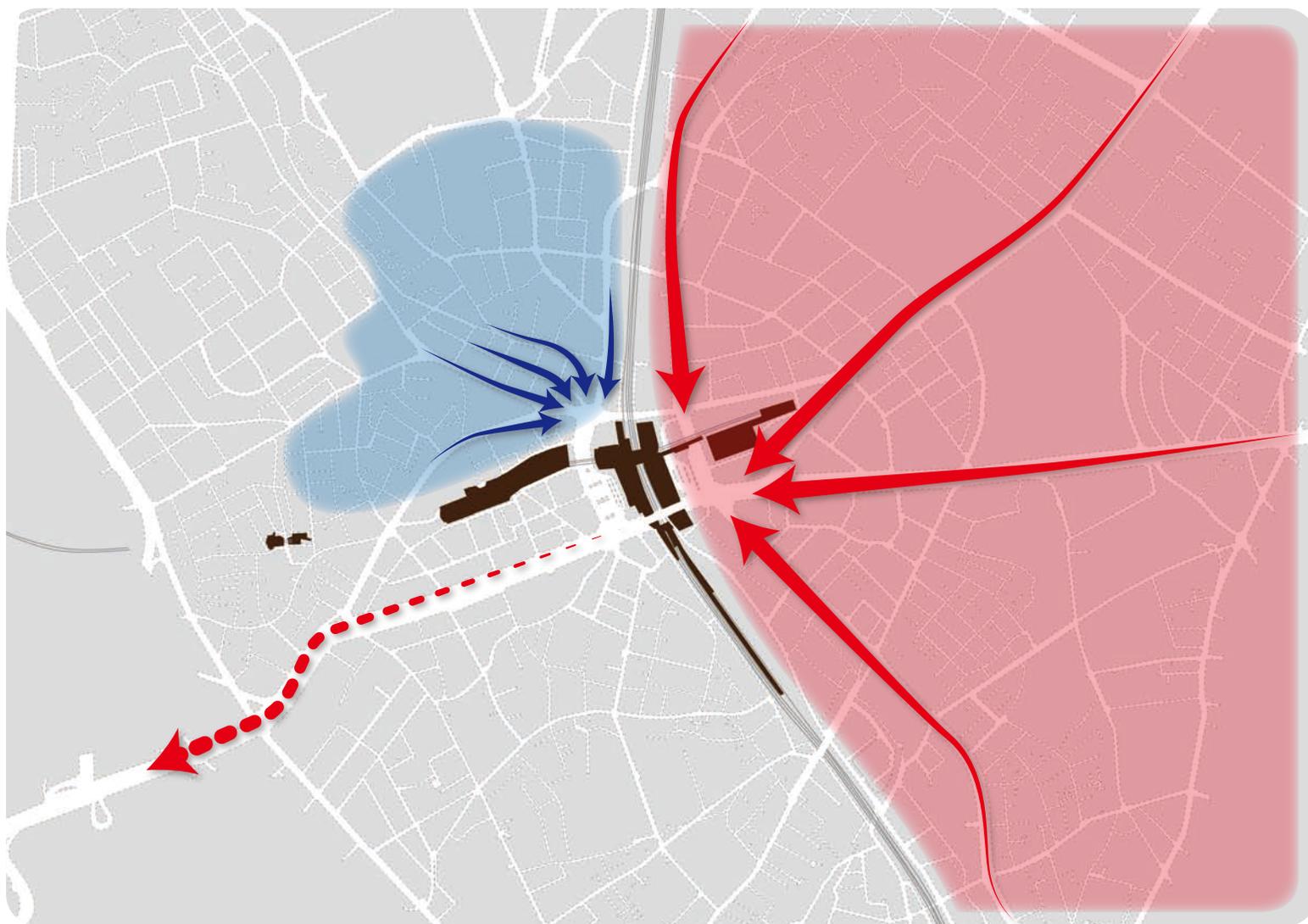
と大生  
も地き  
にとろ、  
。



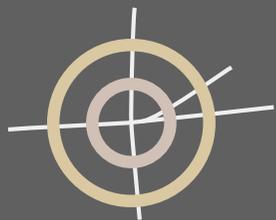


災害想定を踏まえると…

## 渋谷アーバンリング構想



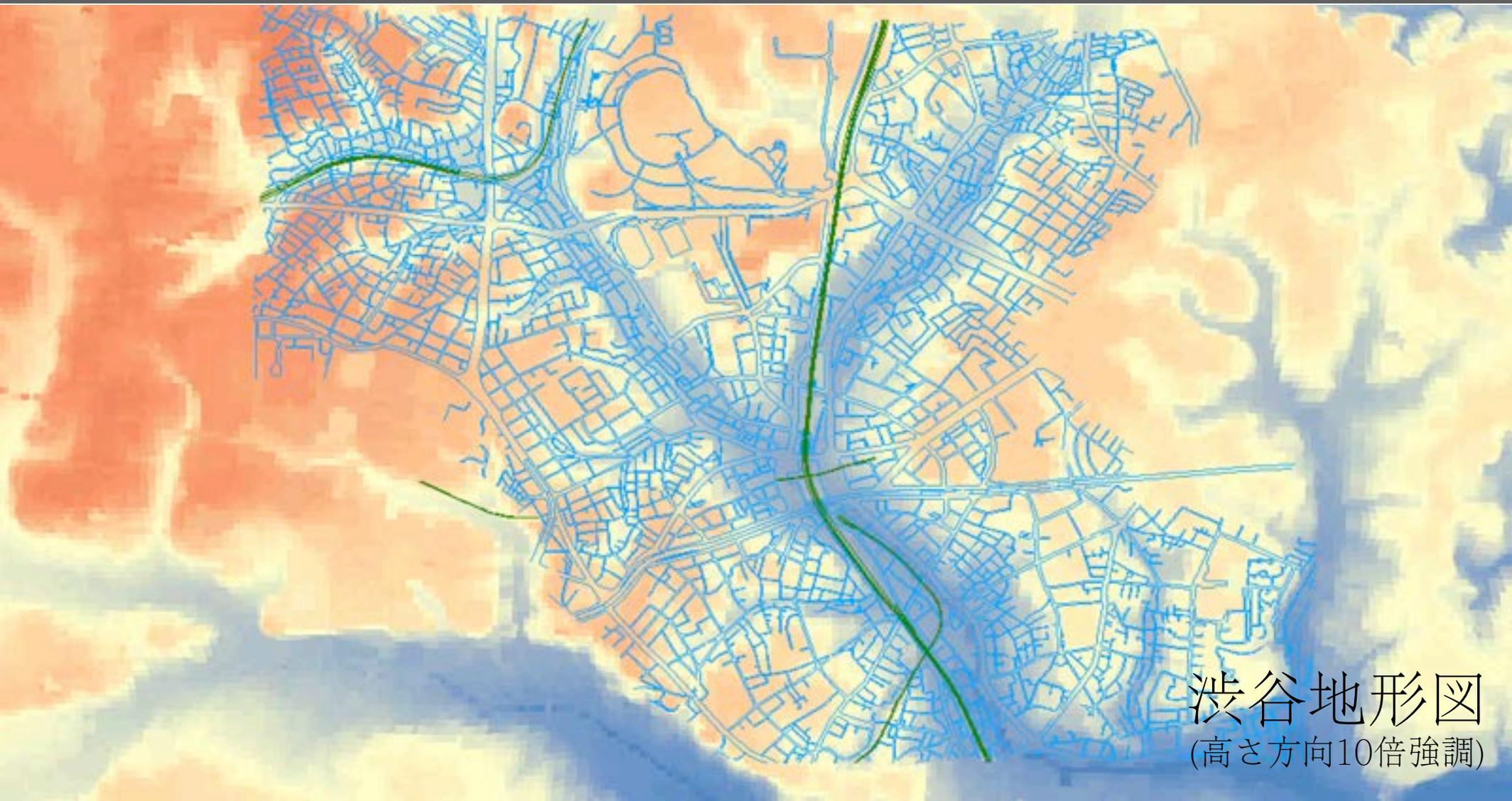




## Concept 1

渋谷アーバンリング構想

渋谷には、その独特の谷地形に起因した  
数多くの特徴的な界隈が存在する。



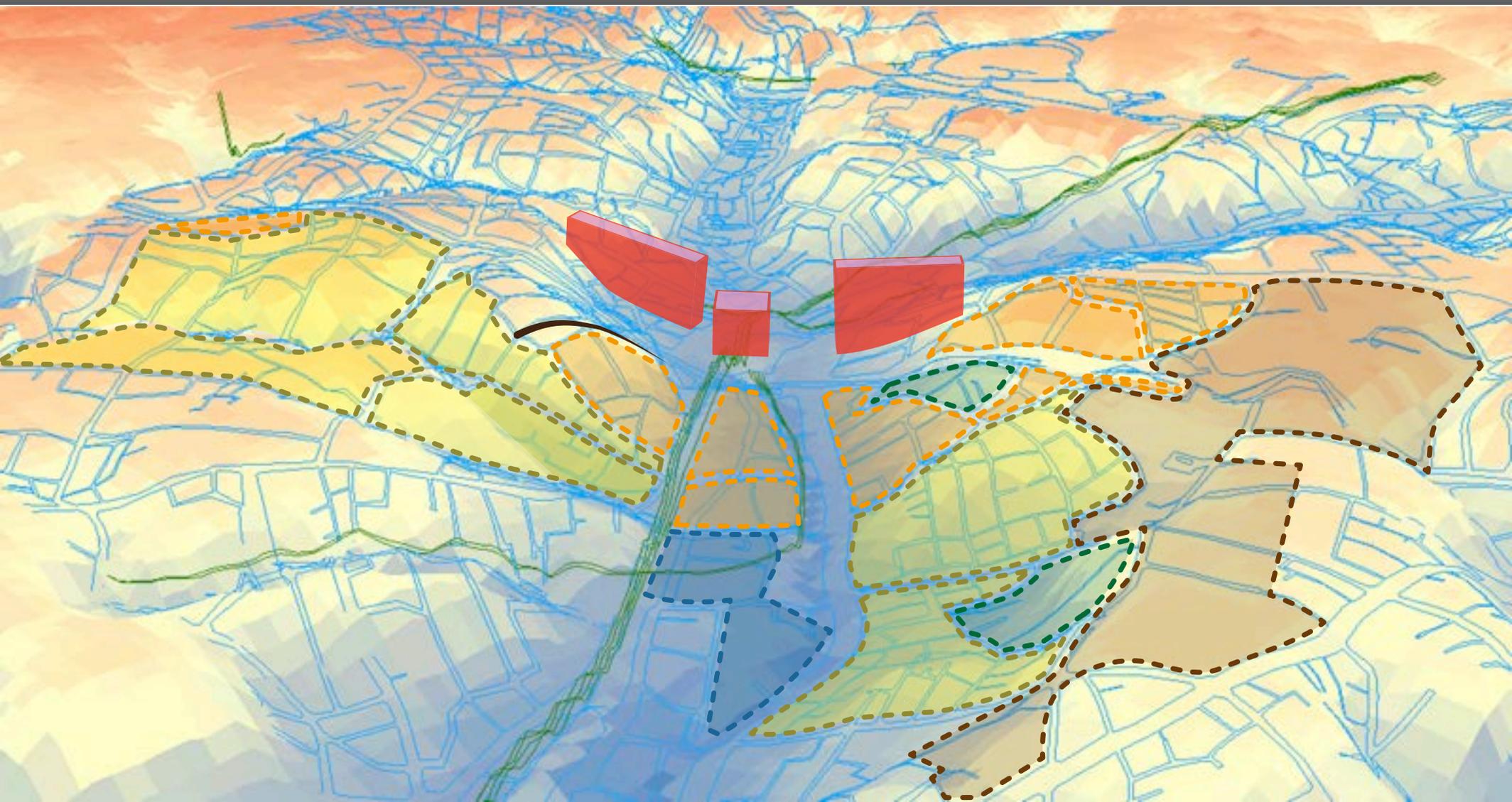
渋谷地形図  
(高さ方向10倍強調)



## Concept 1

渋谷アーバンリング構想

渋谷には、その独特の谷地形に起因した  
数多くの特徴的な界隈が存在する。





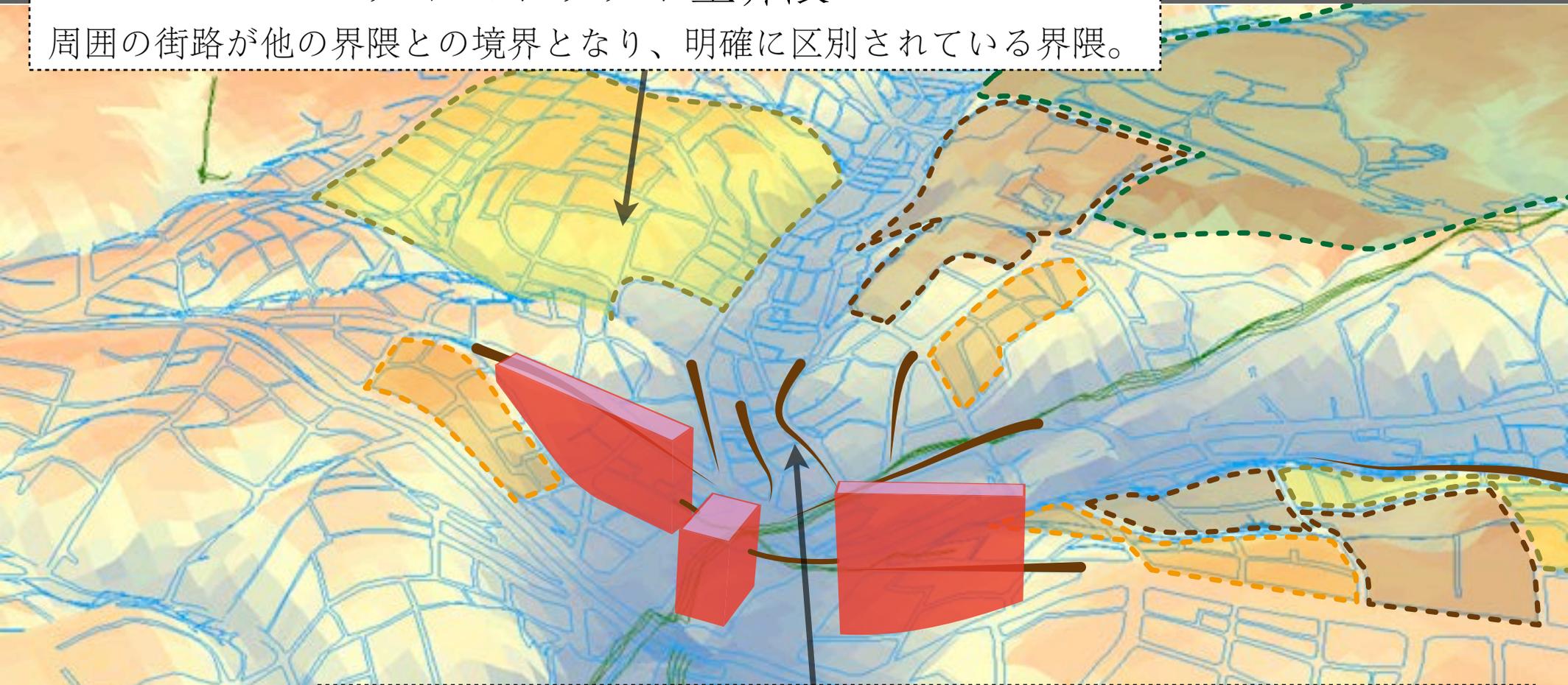
## Concept 1

渋谷には、その独特の谷地形に起因した  
数多くの特徴的な界隈が存在する。

### 渋谷アーバンリング構想

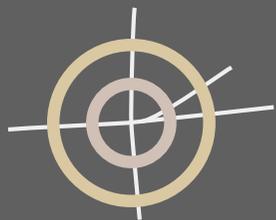
#### ディストリクト型界隈

周囲の街路が他の界隈との境界となり、明確に区別されている界隈。



#### ストリート型界隈

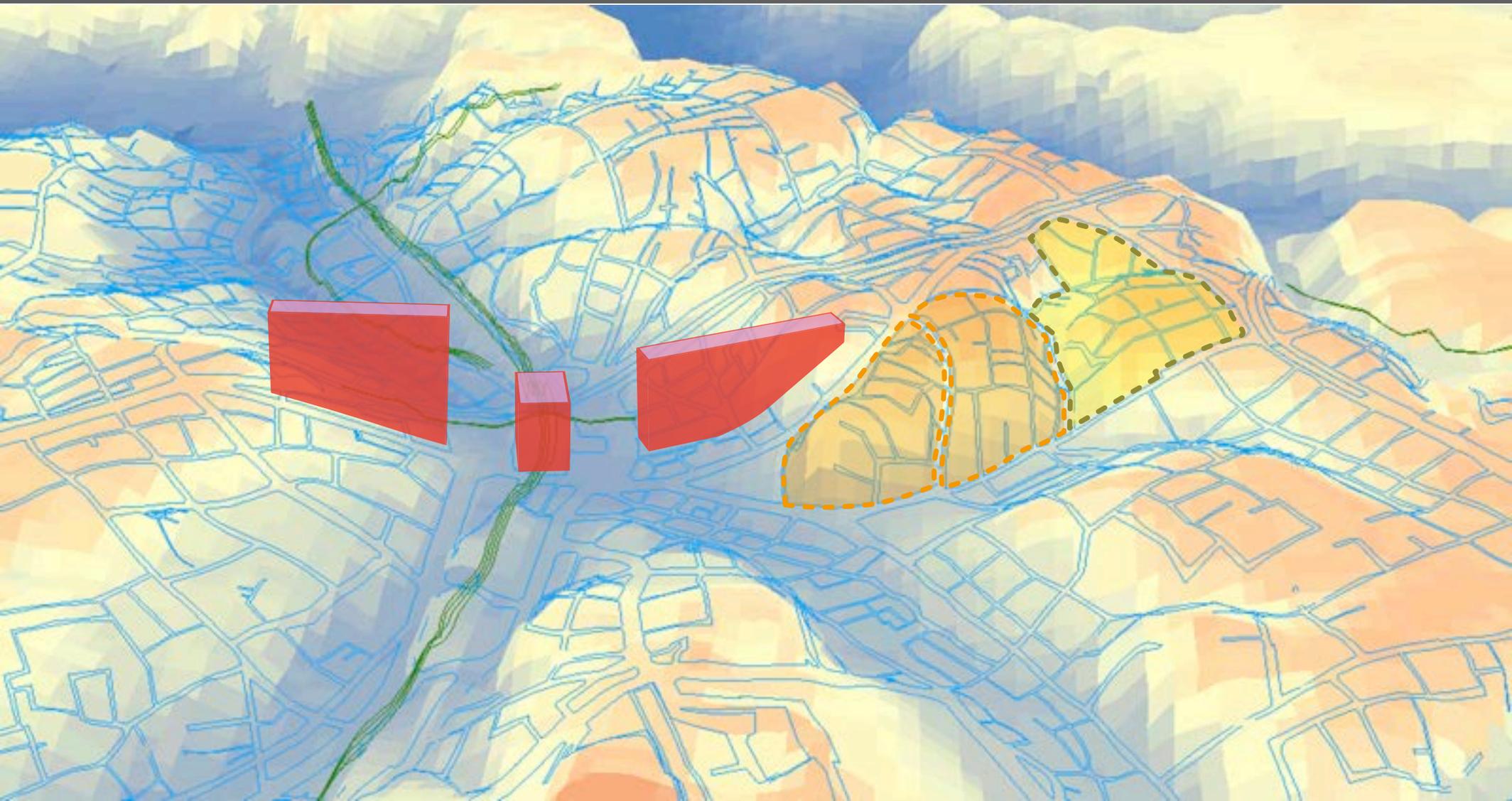
特徴的な街路が中心に存在し、周囲に影響を及ぼして形成されている界隈。

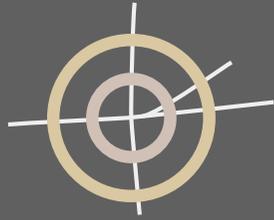


## Concept 1

### 渋谷アーバンリング構想

渋谷には、その独特の谷地形に起因した  
数多くの特徴的な界隈が存在する。





## 渋谷アーバンリング構想

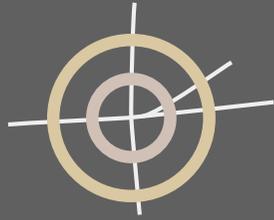
# 進む均質化

## 渋谷の均質化

駅周辺に商業を集積させて利便性を高め、顧客を呼び込もうとする流れ。渋谷独自の地形や界限に触れることなく建物の中だけでサービスを楽しむことができ、他のまちでも同じような開発が進めばその体験は他で代替しうるものになる。

チェーン店の増加による差異の減少、“渋谷の銀座化”。





## 渋谷アーバンリング構想

# 進む均質化

## 東京の均質化

人口減少や職住の近接化によるターミナル集積の機能低下。

郊外の拠点となる場所にも次々大型商業施設が現れる。近隣拠点の成長により、郊外の人々が渋谷へ向かう必要性が薄まる。

情報化により自宅にいながらモノ・サービスが手に入るように。



品川駅



二子玉川ライズ



# 失われゆく渋谷の影・自由度

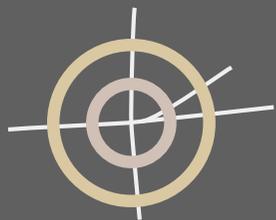
## 渋谷アーバンリング構想

### 渋谷の影

風俗街の百軒店・円山町や若者の溜まり場となっていたセンター街など、都市の“影”の部分も担ってきた渋谷。清濁併せ呑む。

自分を解放できる“影”の空間の存在が、人々に逃げ場を与えてきた。





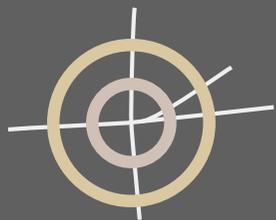
# 失われゆく渋谷の影・自由度

## 渋谷アーバンリング構想

### 自由度のある空間

街角の公園やセンター街の道端のように、所有者の顔が見えにくく不明瞭な場所があることによって、まちの中に自由に使える空間ができる。駅と開発地に距離があることで、大資本に影響されない間の空間が自律的に発展し、新たな文化・価値が創造されうる。（文化村通り、スペイン坂など）



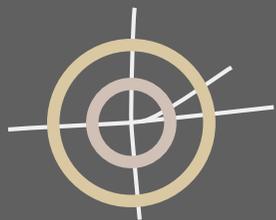


# 失われゆく渋谷の影・自由度

## 渋谷アーバンリング構想

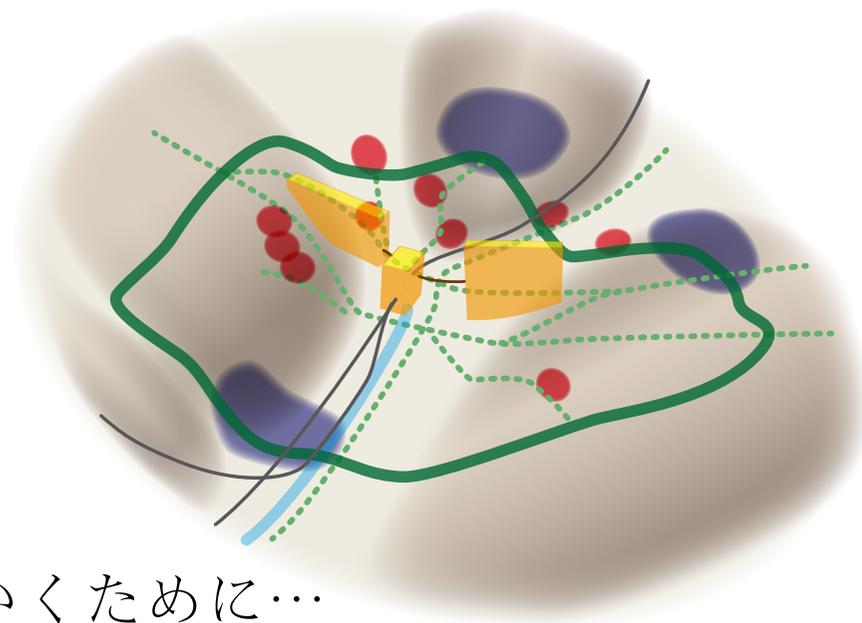


都市の匿名性・開放性を体現してきたこれらの空間が、  
計画・管理された開発により、失われていく。

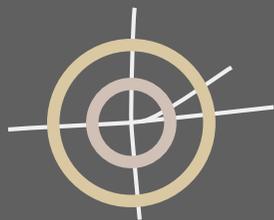


# 大地とともに

## 渋谷アーバンリング構想



渋谷内部での多様性、外部との差異性の喪失を防ぎ、都市の影、自由度を守っていくために…  
渋谷が本来持つ地形に従って生まれた魅力を増進するような形で都市づくりを進めるべきである。  
そのための方策として我々は、大地とともに生きるアーバンリング構想を提案する。



# 課題への対応方針、新たな魅力の創出

## 渋谷アーバンリング構想

### 課題対応①：面的な広がりを持続・発展していく

街角の公園やセンター街の道端のように、所有者の顔が見えにくく不明瞭な場所があることによって、まちの中に自由に使える空間ができる。

駅と開発地に距離があることで、大資本に影響されない間の空間が自律的に発展し、新たな文化・価値が創造される。（文化村通り、スペイン坂など）

### 課題対応②：界隈の独自性・一体性を強める

界隈の中心となる小拠点を整備し、象徴性や交流の場としての機能を与える。

界隈境界の明示により、界隈の存在を明確化していく。

界隈の紐帯を強めることで、人々のアイデンティティを確立し、災害に対する頑健性を高める。

### 魅力創出：新たな交流・憩いのあり方を提示

リングー異種の人々と交流しながらも、落ち着くことのできる匿名の滞留。

サブ拠点一知り合いと触れ合いながら安らぐことのできる、顕名性ある滞留。

中核拠点一多くの匿名の人々と交わり、刺激を得ることのできる滞留。



# アーバンリングの役割

## 渋谷アーバンリング構想

### 1. 無目的でゆっくりした流動を生み出す

目的地へ向けた放射の流動とは異なる流動を生み出し、新たな憩いの形態を創出する。

### 2. 近接する界隈性が染み出し、豊かな空間に

近接する界隈の特徴を反映させることで、画一的でないリングを形成する。

### 3. 複数の界隈の人々の交流を生み出す

界隈の境界部に位置するリングは、近接する複数の界隈の人々が交わる空間となる。

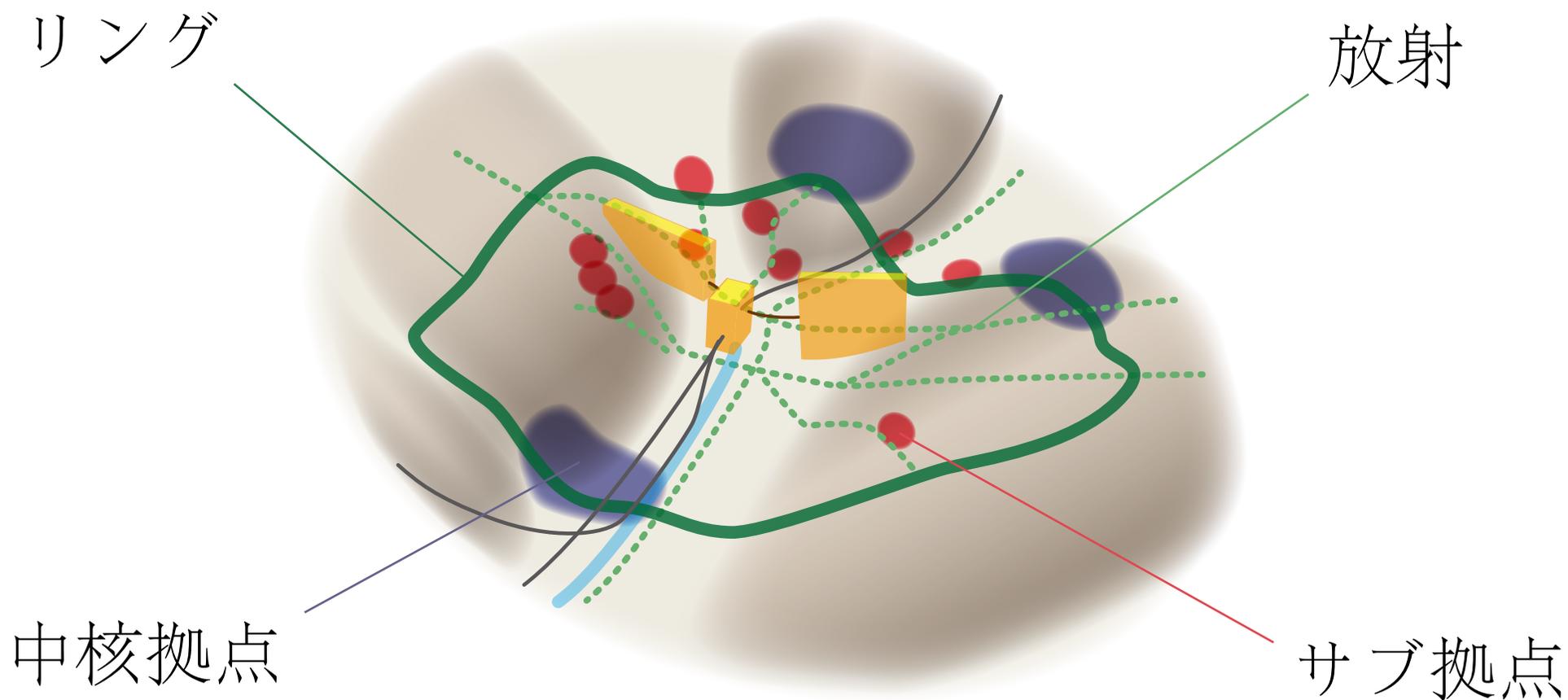
### 4. 駅とは異なる新たな入り口となる

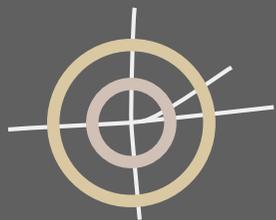
渋谷の外郭を明示するアーバンリングは、遅い交通による渋谷への玄関口として機能する。遅い交通で訪れるのは渋谷の個性に惹かれる人々が多く、ターミナル集積の駅周辺とは異なる特徴を持ちうる。



# リング／放射／拠点

渋谷アーバンリング構想





# リング／放射／拠点

## 渋谷アーバンリング構想

### 放射

主に特定の目的地へと向かう強く速い流動。

### リング

目的地への流動だけでなく、放射の流れから零れ落ちた、特定の目的を持たない弱めで遅めの流動も。

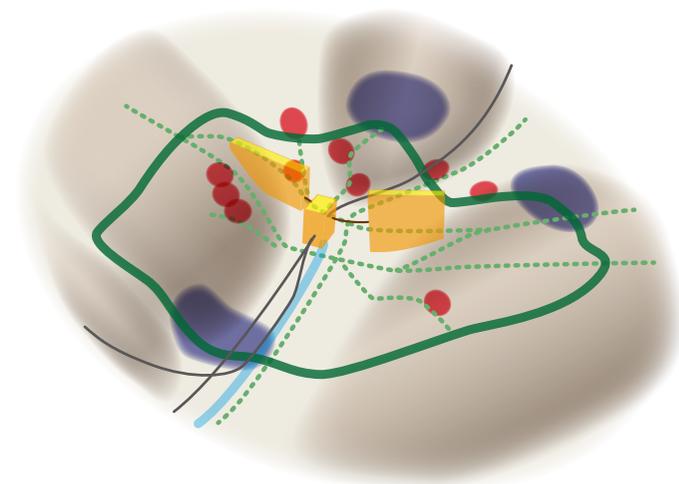
異種の人と交わりながらも安らげる、拠点と界限中心の結節的存在。

### 中核拠点

多様な人々が集まり、刺激を与えることで創造性を生み出す空間。

### サブ拠点

同質性のある人々との交流が安らぎを与える空間。







# リング／放射／拠点

## 渋谷アーバンリング構想

### リング

幅員8mの歩行者空間が基本、全長4.3km  
円山町などに配慮

### 中核拠点

シビックセンター(南、区役所移設、市民活動の中心)  
フェスティバルセンター(NHK・現区役所、祭り空間)  
コスモセンター(青山病院跡地・こどもの城、多世代複合施設)

### サブ拠点

金王八幡、美竹公園など

### 放射

公園通り、明治通りなどの再整備

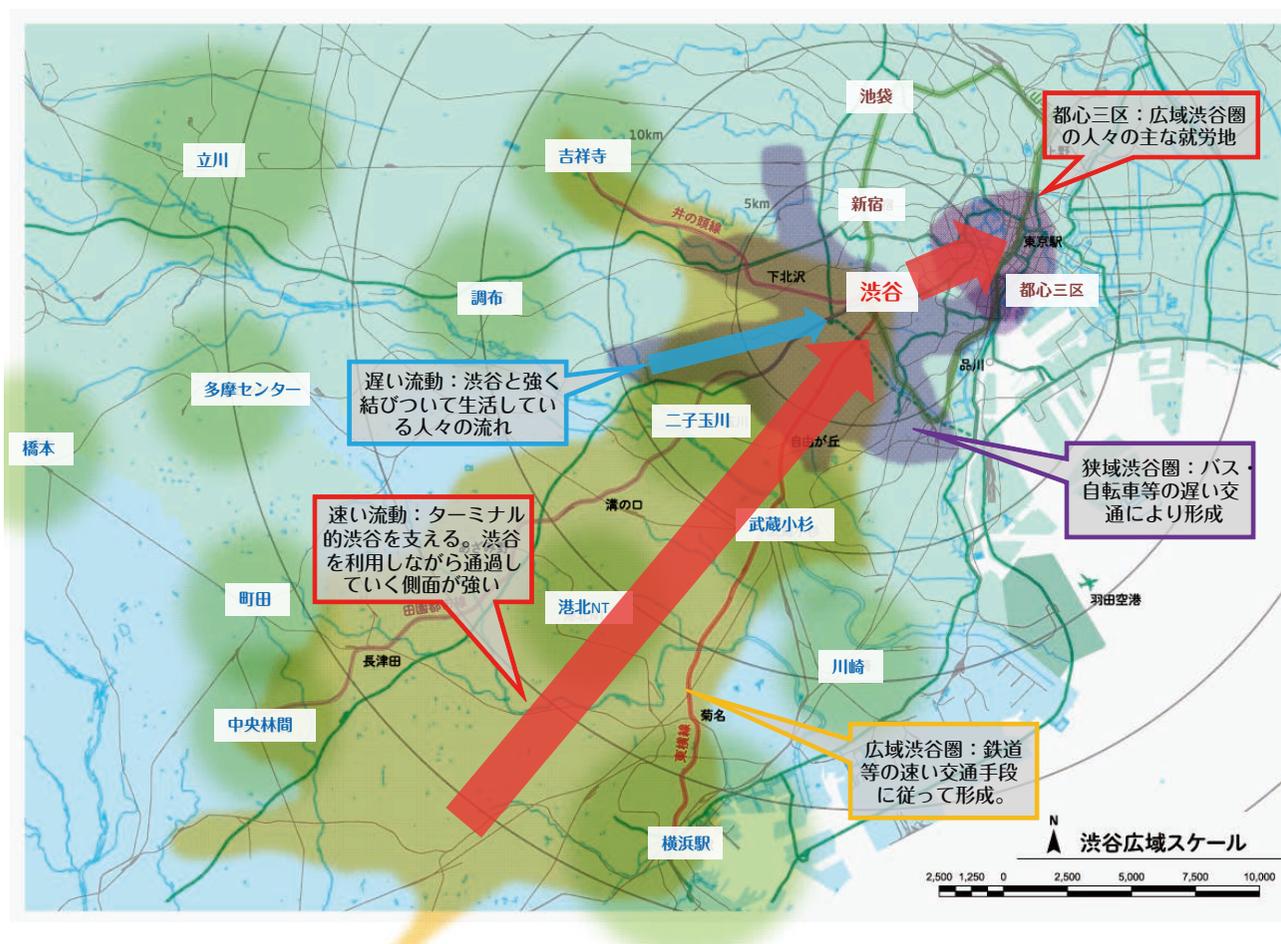


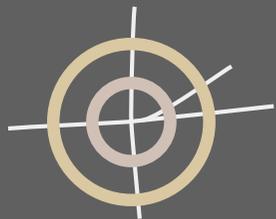
# 広域

## 渋谷アーバンリング構想

### 現状

ターミナルに依拠した  
広域渋谷圏(→衰退の危機)  
の接続





# 広域

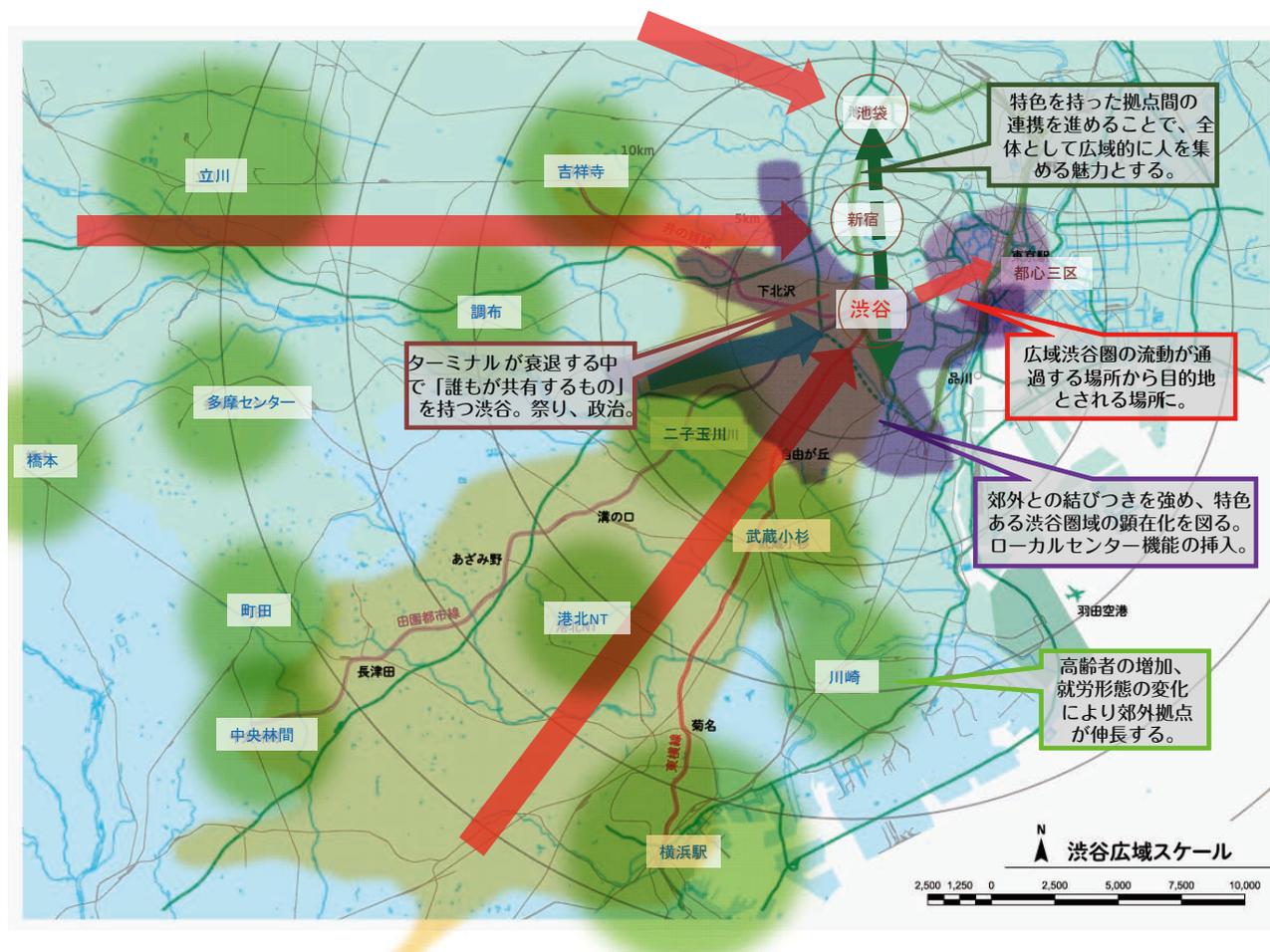
## 渋谷アーバンリング構想

### 将来

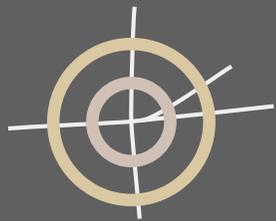
広域的に人を集め続けるための個性の強化

→狭域渋谷圏の強化

→周辺都市との接続



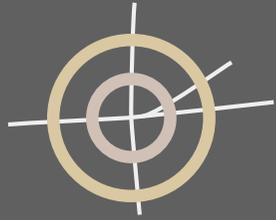




## 渋谷アーバンリング構想

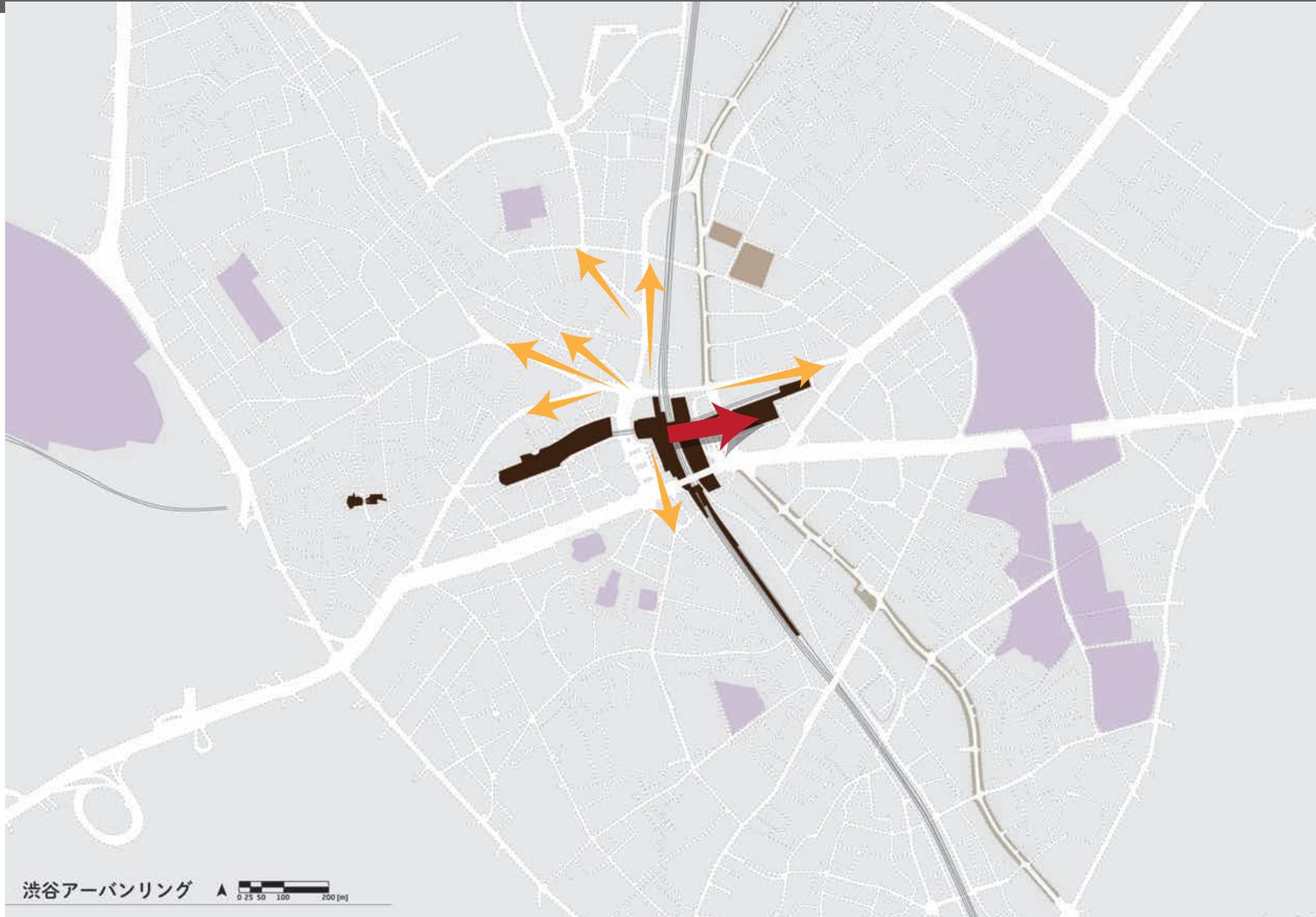
発災前—アーバンリングができるまで  
フェーズ0（現在）

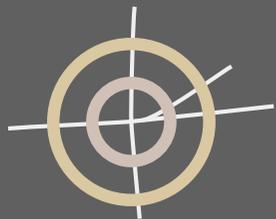




# 発災前—アーバンリングができるまで フェーズ0（現在）

## 渋谷アーバンリング構想

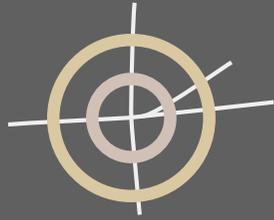




## 渋谷アーバンリング構想

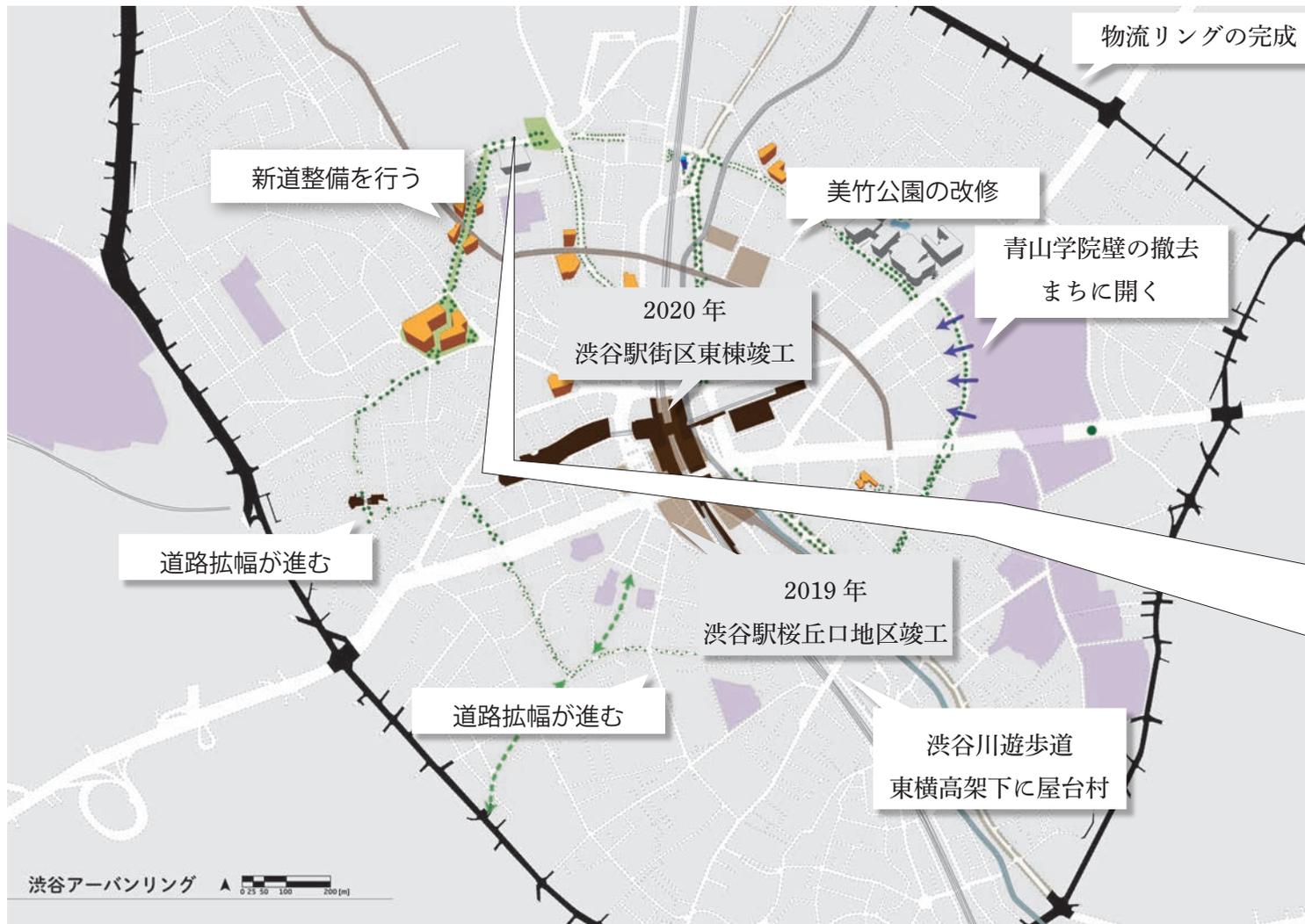
# 発災前—アーバンリングができるまで フェーズ1（5年後）





## 渋谷アーバンリング構想

# 発災前—アーバンリングができるまで フェーズ2（10年後）



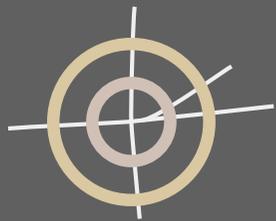


## 渋谷アーバンリング構想

# 発災前—アーバンリングができるまで フェーズ2（10年後）

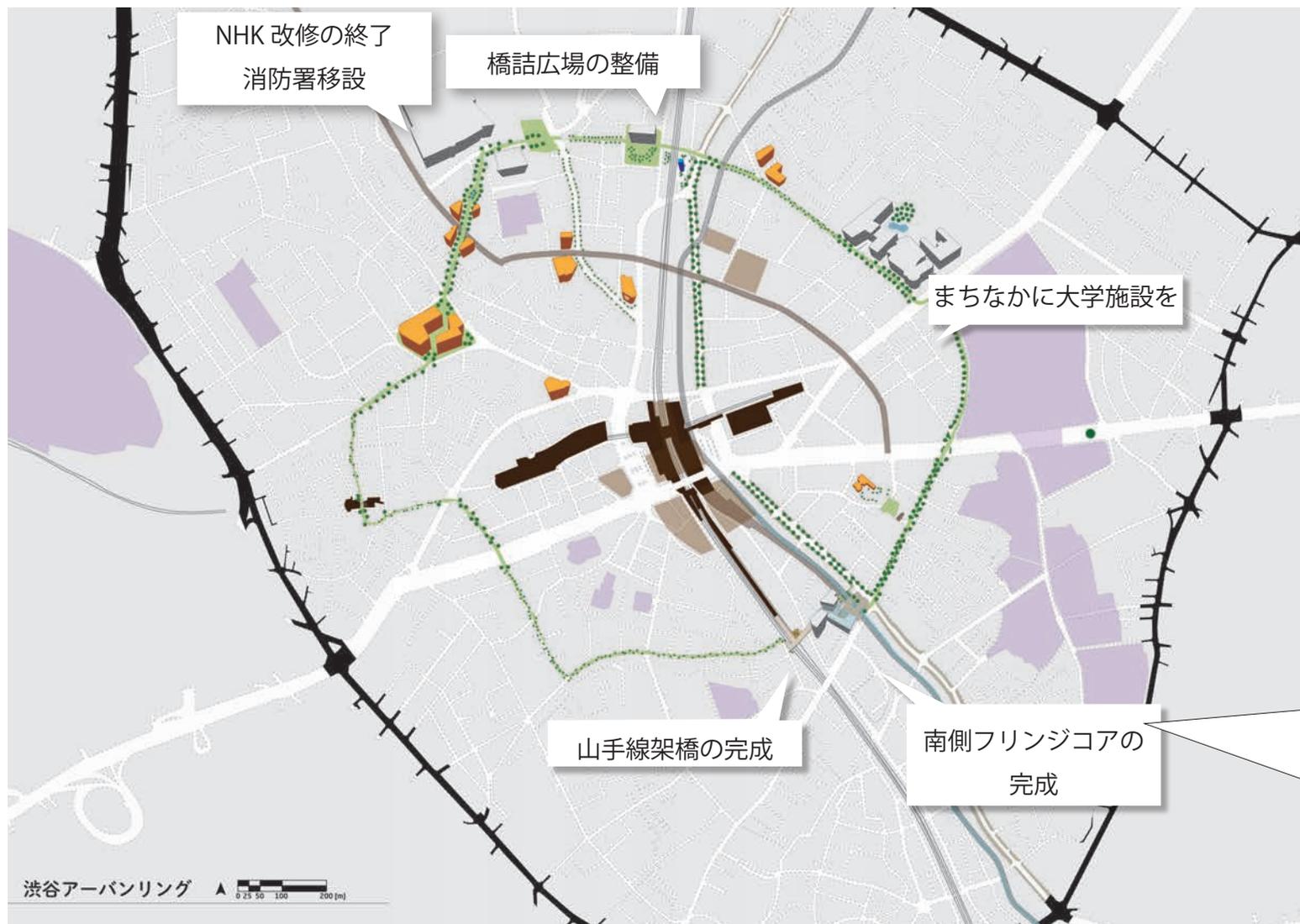
### 渋谷区役所北分庁舎





## 渋谷アーバンリング構想

# 発災前—アーバンリングができるまで フェーズ3（30年後）





# アーバンリングができるまで—事業の成果 フェーズ1（5年後）

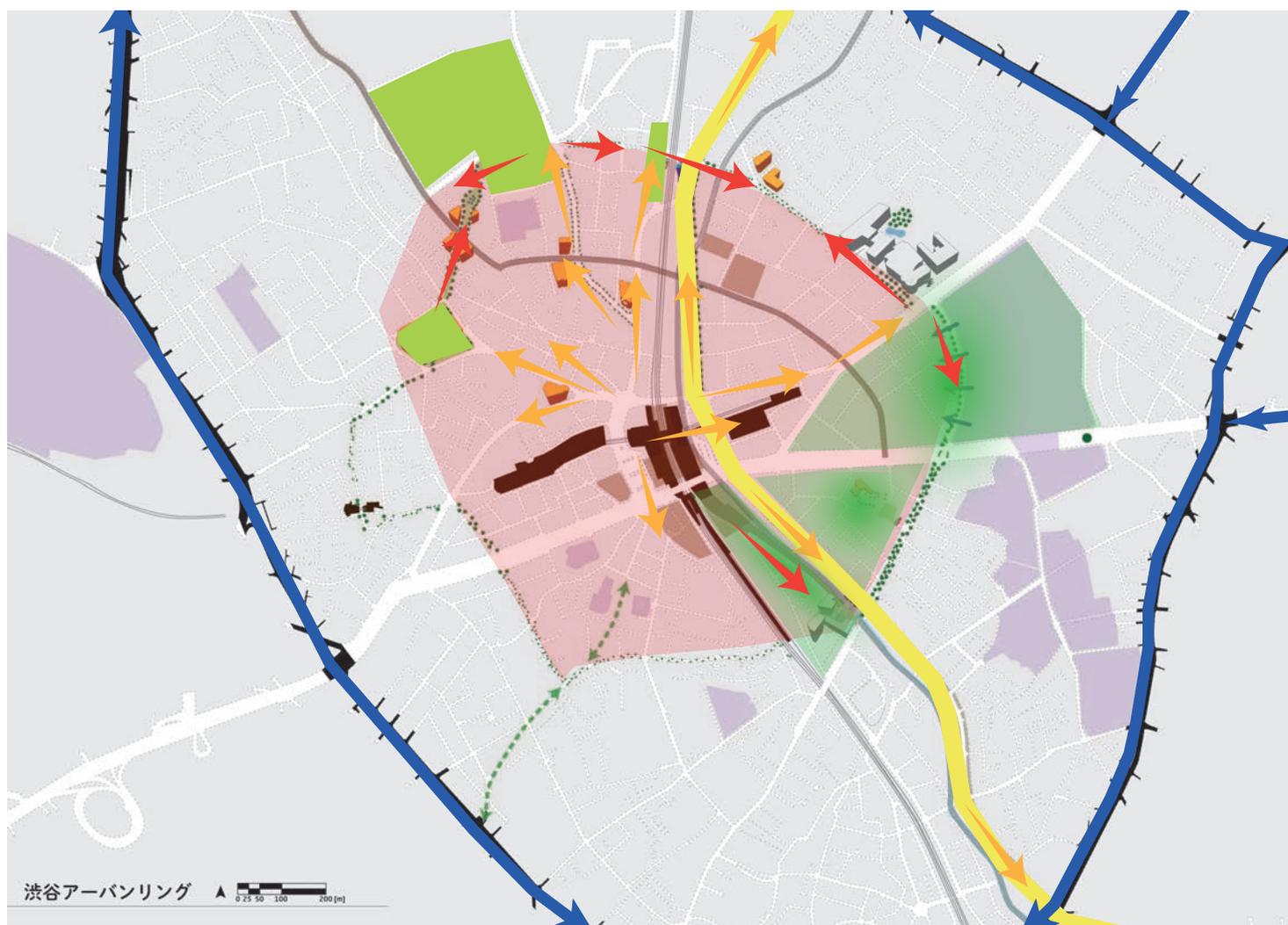
## 渋谷アーバンリング構想





# アーバンリングができるまで—事業の成果 フェーズ2（10年後）

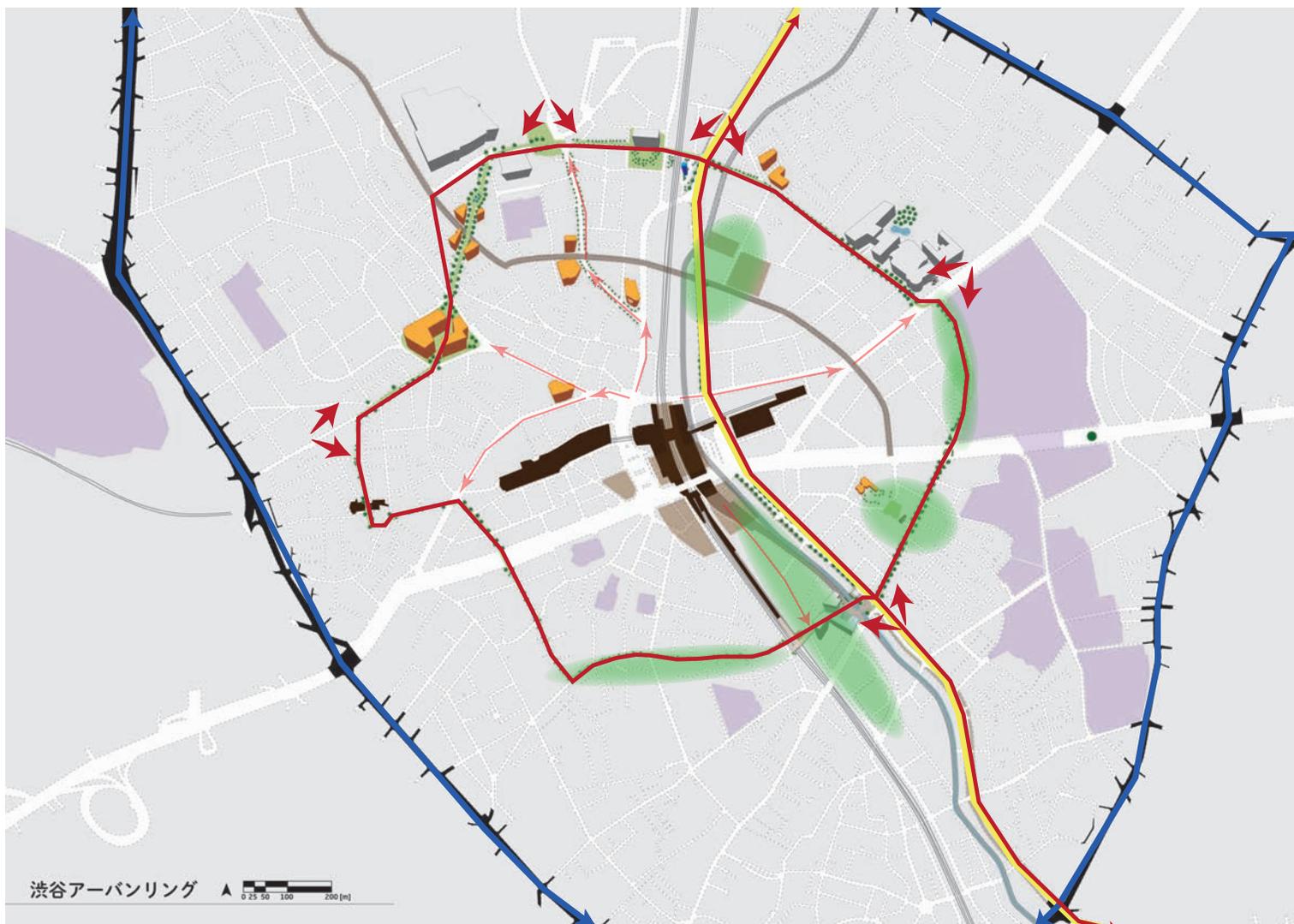
渋谷アーバンリング構想

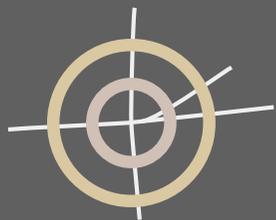




# アーバンリングができるまで—事業の成果 フェーズ3（30年後）

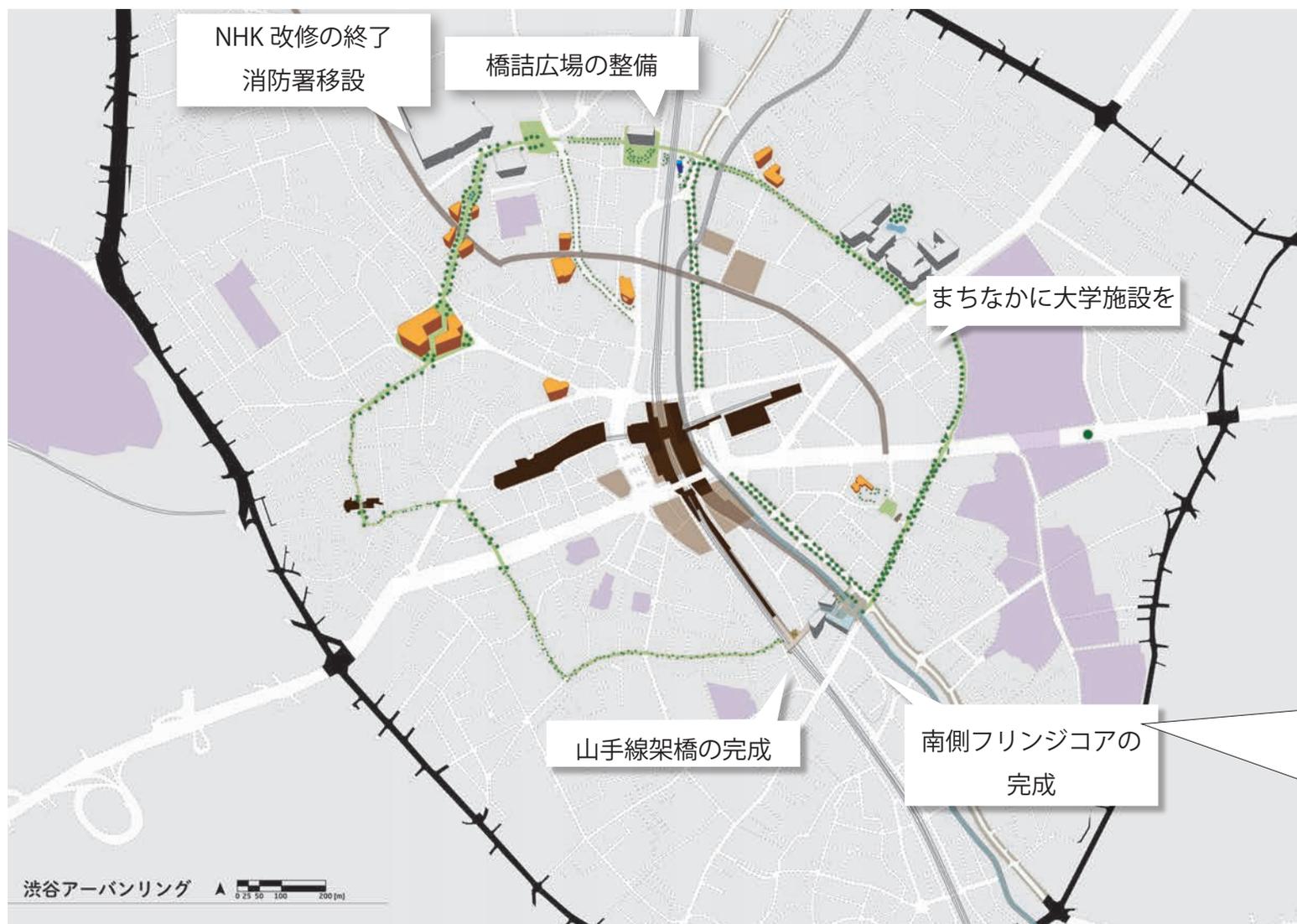
## 渋谷アーバンリング構想

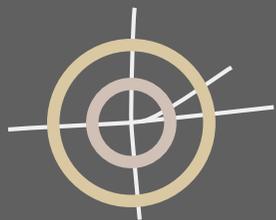




# アーバンリングができるまで—事業の成果 フェーズ3（30年後）

## 渋谷アーバンリング構想

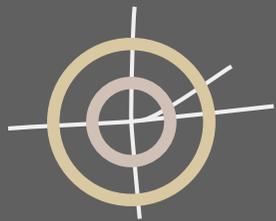




渋谷アーバンリング構想

アーバンリングができるまで  
金王八幡宮（現在）

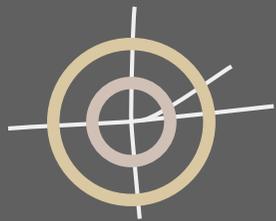




# アーバンリングができるまで 金王八幡宮（フェーズ1）

渋谷アーバンリング構想

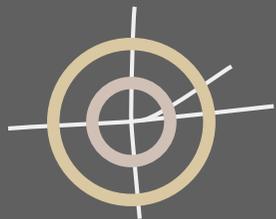




渋谷アーバンリング構想

# アーバンリングができるまで 金王八幡宮（フェーズ2）

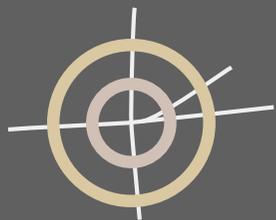




# アーバンリングができるまで 金王八幡宮（フェーズ3）

渋谷アーバンリング構想





渋谷アーバンリング構想

# アーバンリングができるまで 金王八幡宮（断面図）



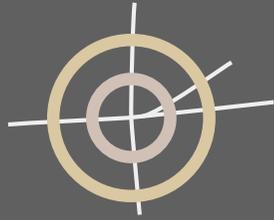


渋谷アーバンリング構想

# 発災後の動き もしリングがなかったら

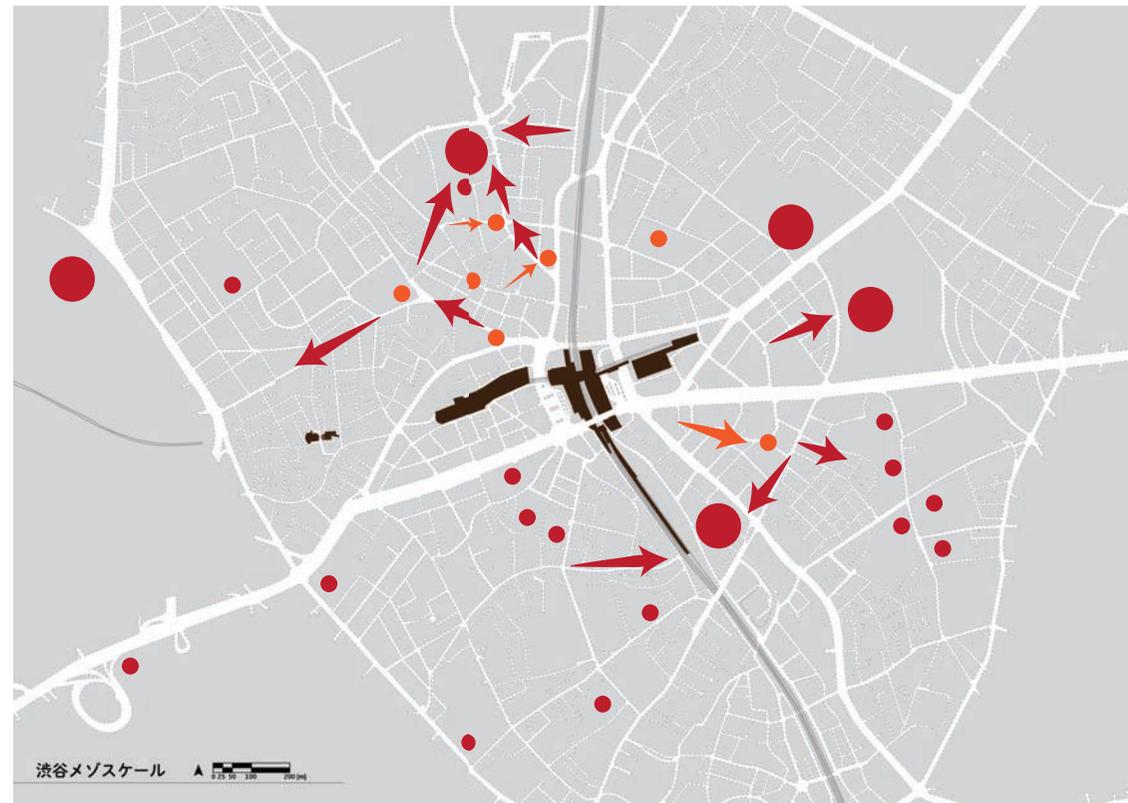
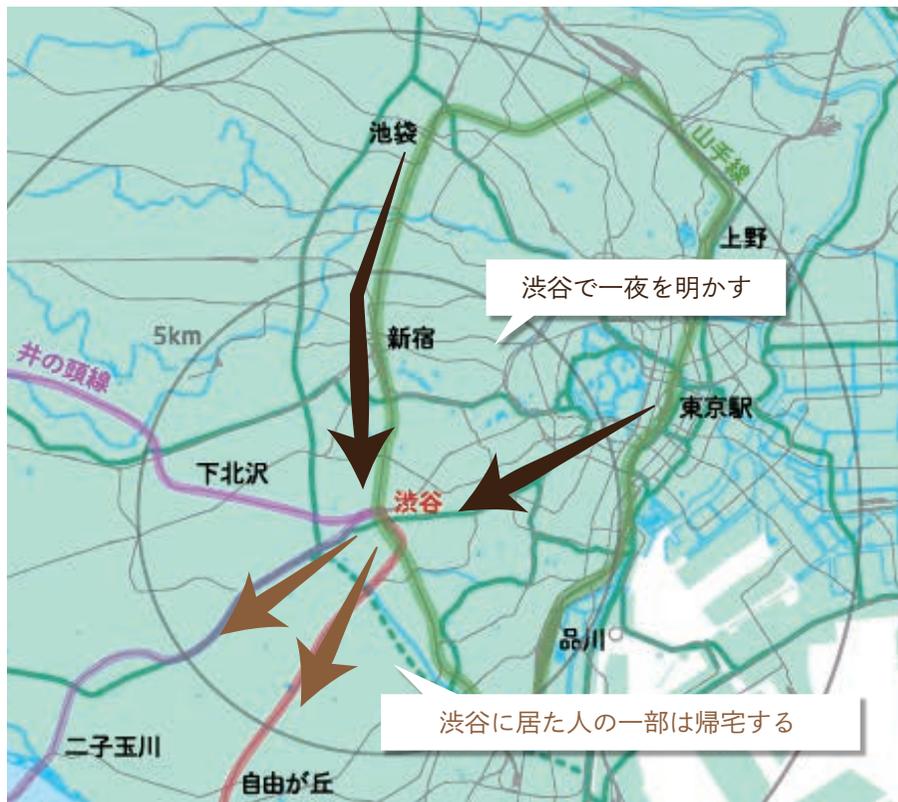


人の流れの集中による混乱、物資や場所の不足が危惧される

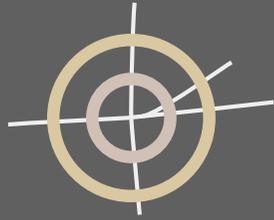


## 渋谷アーバンリング構想

# 発災後の動き 発災直後

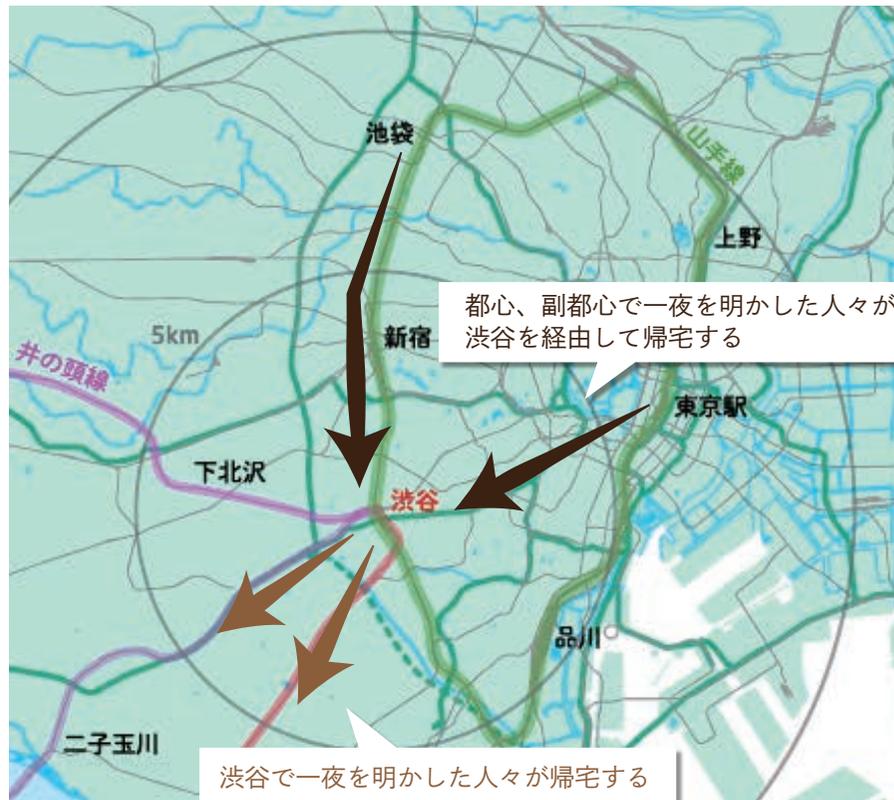


外側への誘導、サブ拠点への一時避難、リングを通じ中核拠点へ、大きな人の流れを制御するダムの役割

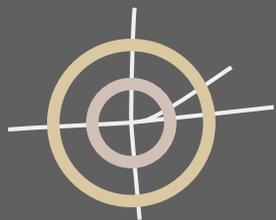


## 渋谷アーバンリング構想

# 発災後の動き 翌日

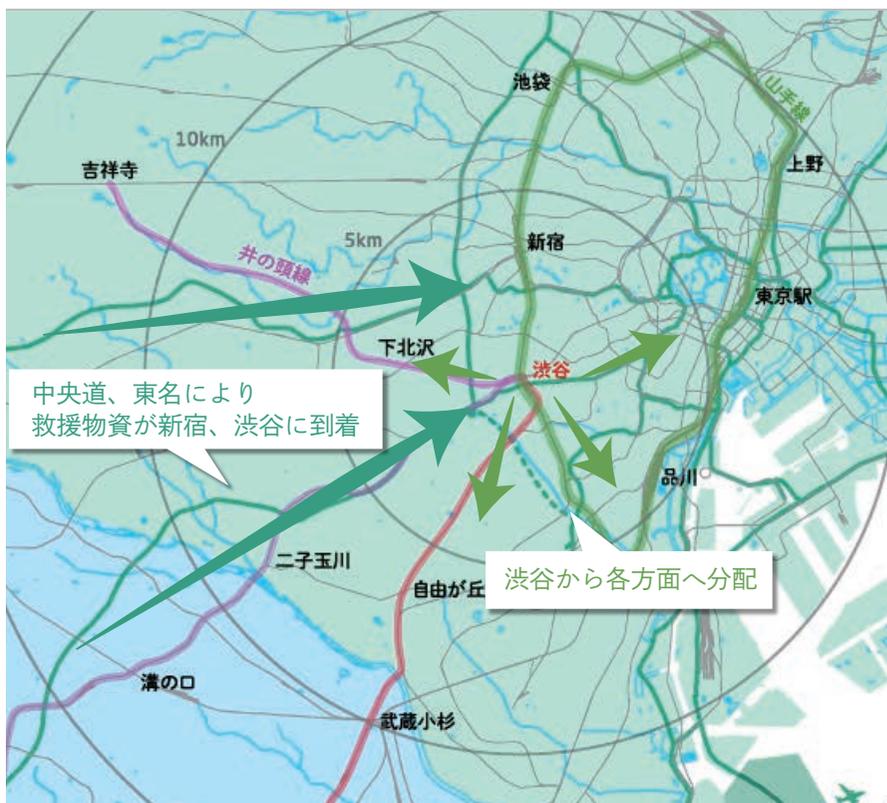


東から訪れる帰宅困難者の波に対処、  
郊外を含めた住民への支援

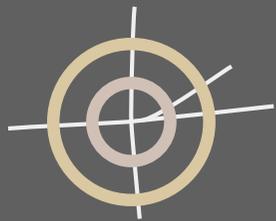


## 渋谷アーバンリング構想

# 発災後の動き 2～3日後



物資の集散地としての渋谷、瓦礫除去など復旧が進む

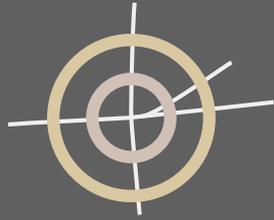


## 渋谷アーバンリング構想

# 発災後の動き 7日後



内側で混乱が続く中、外側が復興の牽引役になる



# 公園通り

## 渋谷アーバンリング構想

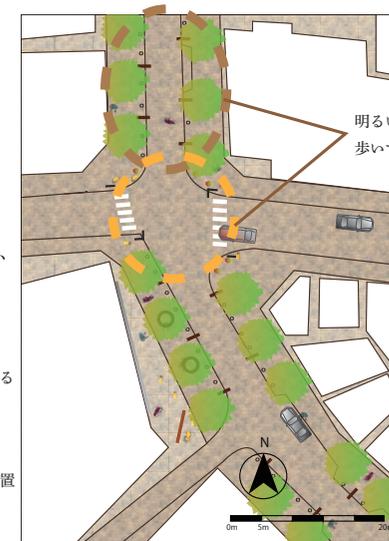


通りを拡張する街路樹と街灯、  
フットランプ、旗（サイン）

最も視界に入るスポットに滞留空間を作ることで、  
より奥が意識される。

デジタルサイネージを施す  
通りの象徴的な場として意識される

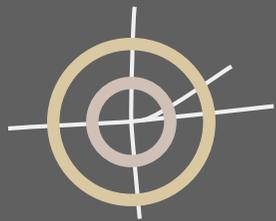
外への意識が向くように  
「代々木公園まであと〇〇km」などのサインを設置



明るい空間と影のある空間の混在  
歩いて楽しい空間を生み出す

一車線にすることで  
先の視界を遮らず  
行動の範囲が広がる

放射路における外への人の流れの制御。  
Y字型の交差点を利用した誘導、サイン計画。



# 公園通り (災害時)

## 渋谷アーバンリング構想



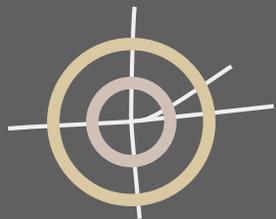


# 金王八幡

## 渋谷アーバンリング構想

来街者にも住民にも  
作用するサブ拠点。  
周辺の建物を広場と  
一体的に利用。





# 金王八幡 (災害時)

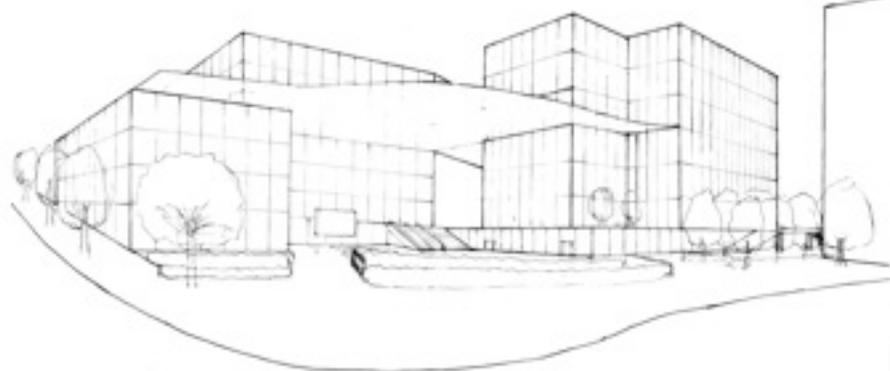
渋谷アーバンリング構想



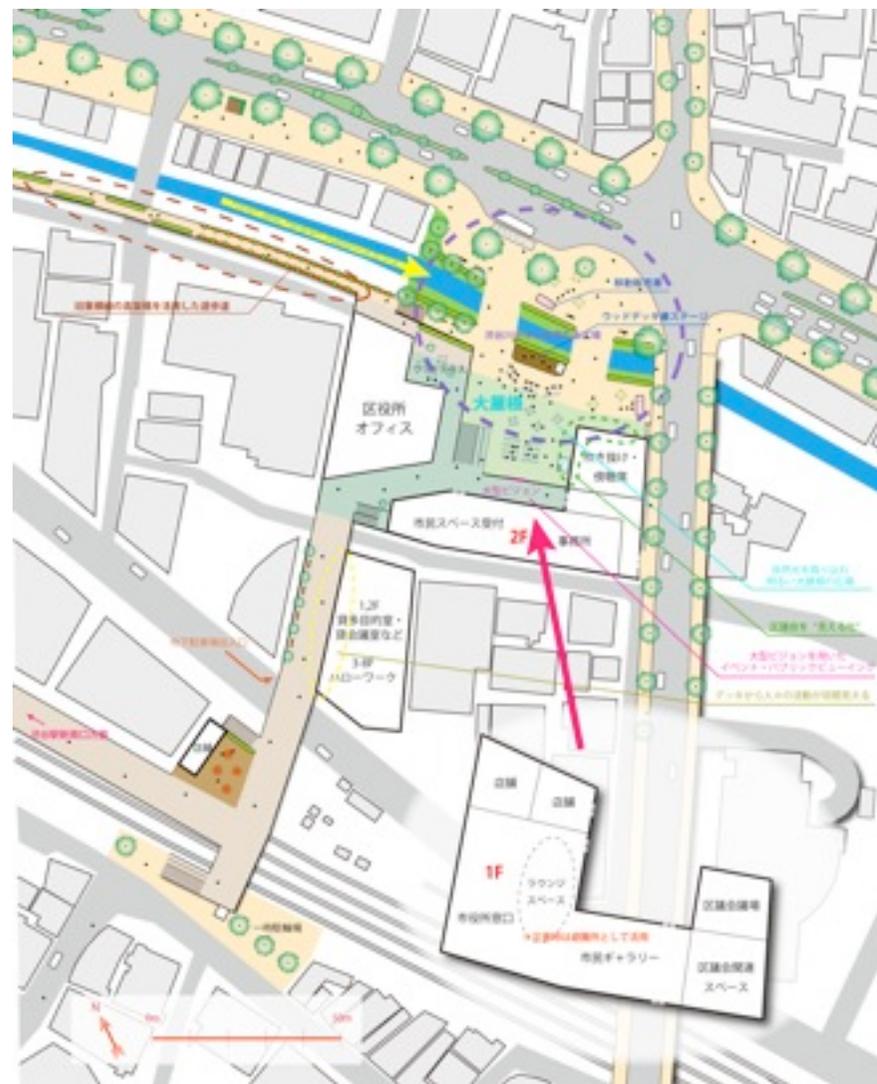


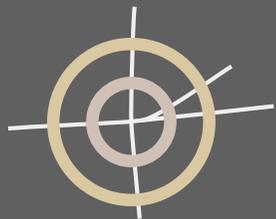
# 渋谷シビックセンター

## 渋谷アーバンリング構想



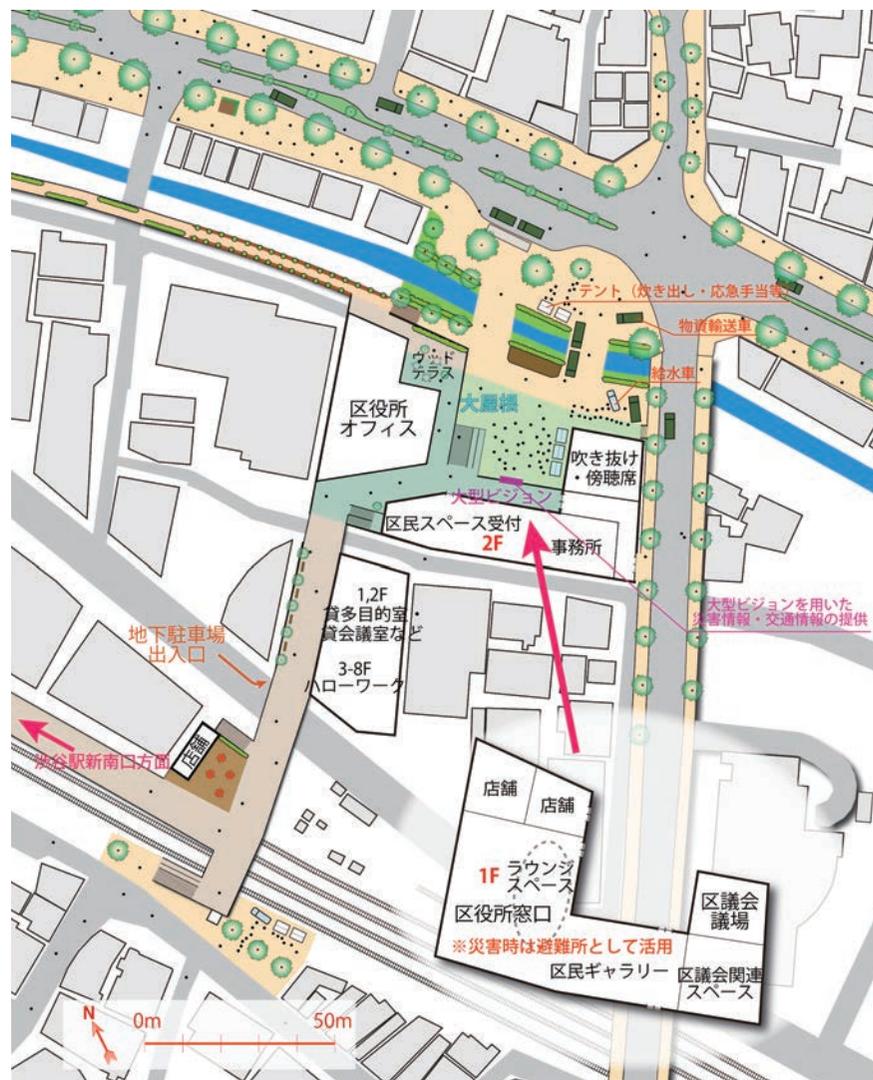
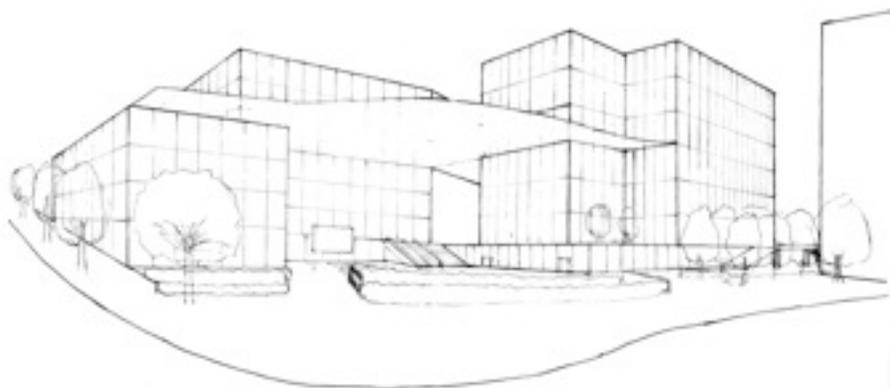
中核拠点のひとつ。八幡通り(リング)・明治通りからの見え方を意識、雨風を凌げる大屋根のかかった広場。

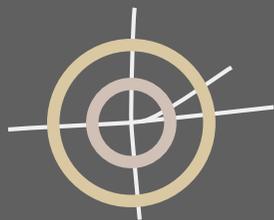




## 渋谷アーバンリング構想

# 渋谷シビックセンター (災害時)





リングプラン：日常時と災害時の重なり合い、双方の問題を同時に解決

日常時の構造変化が災害時の頑健性につながり、災害からの復興過程が日常時の渋谷をよりよくするという相互作用

長期的視野に立った渋谷の生き残り計画

→土地が持つ固有性を活かすことで渋谷の魅力を高めてゆく